

円・米ドル相場～過去の経験則から考える

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

4日の東京外国為替市場で、円は一時1米ドル＝85円台前半まで買い進まれ、2009年11月以来の円高・米ドル安水準となりました。米国経済の先行き不透明感が高まる中、FRB(米連邦準備制度理事会)が追加の金融緩和政策に踏み切るのではないかとの見方も勢いを増しており、これらによる米国金利の低下観測が、円じり高の背景になっています。今週末には米国雇用統計、来週にはFOMC(米連邦公開市場委員会)など重要なイベントを控えていることから、しばらくは神経質な相場展開が続くとみられます。

ところで、1990年以降の米ドル相場(対円)の動きを見てみると(下図)、おおむね5年ごとに円が重要な「高値」をつけるなど、興味深い傾向があることがわかります。5年ごとに経済の状況が同じであったわけではありませんが、中長期的な観点から見ると、通貨の動きが一方通行になりにくいことを示しているように思われます。また、同じく、過去の経験則でいうならば、米国の中間選挙の年は、円高方向へ進む傾向が見られました。今年には11月に中間選挙を控えています。オバマ政権は、財政赤字大幅縮小を目指していると同時に、輸出振興策を経済成長戦略として掲げているため、緩やかな米ドル安はむしろ歓迎すると考えられます。そうした意味では、足元の水準が今年の「円の高値」となるかどうかはわかりませんが、過去の動きを参考にするのであれば、おおむね5年ごとに重要な「高値」をつけている、そして、中間選挙の年といった二つの経験則が合致すると考えられる今年、相対的に「高値圏にある円」をどう捉えていくのかを考える良い機会ではないでしょうか。

米ドル相場(対円)の推移

(1990年1月1日～2010年8月4日)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。